

7番 岡元 浩一 議員

1 産業振興策の推進について

(1) 市長は就任前の政治活動の中で「無いものねだりでなく、有るもの探し」をキャッチコピーとし公約実現の言霊とされた。資本主義社会で生きる市民にとって産業振興は生きる糧の基盤整備であり人口減少化対策の一助となり得ると考える。そこで「南神北仏東鰻西勘」を持って交流人口増策と、地域経済発展に寄与すると考えるが以下のことについて回答を示されたい。

- ① 吾平町神野地区について「吾平富士」「吾平自然公園」「吾平山上陵」「大隅広域公園」等を踏まえ、どのように認識しているか。
- ② 輝北町仏山地区の名称や時代背景についての認識について示されたい。
- ③ 串良町にある養鰻産業について、更なる発展策として飲食や土産品などの地域興しについての認識を示されたい。
- ④ 古江町の「カンパチ（勘八）」を中心とした漁業発展の一環として既存の飲食店に限らず海岸線沿いの地域発展につなぐ将来像を示されたい。
- ⑤ 鹿屋市全体を周回し高隈の石蔵館、鹿屋航空基地史料館、かのやばら園等の一つひとつの「有るもの」を体験する「サイクリングで分かる大隅の主たち」を提唱するが、そのような考えはないか。

(2) 企業誘致での産業振興は鹿屋市の大きな課題である。串良町・細山田にある県有地については平成18年から本会議等で提唱してきたが現在の進捗状況について以下のことについて示されたい。

- ① 鹿児島県との協議状況を示されたい。
- ② 工業団地としての認識を示されたい。
- ③ 都城市や志布志市が進める物流拠点化とリンクさせるために「農畜水産物加工事業者」や小規模事業者の新規スタートアップ振興について、その認識を示されたい。
- ④ 鹿児島県のみならず、国との連携が必要と考えるが現状について示されたい。
- ⑤ サードパーティーロジスティクスで生産から保管・加工・商品化、代金回収までを行う一貫事業者の認識と推進について示されたい。

2 労働災害の考え方について

(1) 本9月定例会初日の専決事案では「交通事故」と「刈払機による飛び石事故」が報告された。定例会の度に事故報告がされているがハインリッヒの法則を当てれば重大事故も予想される。職員の労働災害や事故を防ぐために、また、市民に信頼される行政であるために、以下のことについて示されたい。

- ① 今回は被害事故であったが、これまでも車両事故の報告回数が多く感じられる。鹿屋市が保有している車両台数と稼働率の現状を示されたい。また、これは民間事業者と比較して事故率の頻度をどのように捉えているか。
- ② 安全運転を促すためのアルコールチェックは下より対策についての取組状況を示されたい。
- ③ 現場における刈払機の安全対策について、その取組を示されたい。
- ④ 1：29：300の法則をどのように捉えているか。